

幼稚園を覗く (三)

竹 村 一

私の園醫をしてゐます幼稚園の保姆諸君は、毎月の身體測定の結果を前月と比較して例へば少しでも體重の減少したもの、元氣の悪くなつたもの、顔色の變になつたもの、お仕事の出來ばえの悪くなつたもの等の「生活觀察」を始められております。

お母さんについて、その一ヶ月に於ての生活の變化の有無、病氣の有無、母親の氣付た點等を委しく調べて、園醫も再び相談して適切な「生活指導」を與へておられます。時には精神衛生方面の問題が起ります又それは其方面の先生に指導をうけてお母さんを指導しておられます。

健康への正當な満足は、こどもが小さければ小さい程、より切實な、より適確な指導によつて與へられねばならぬことだと思ひます。

幼稚園では、唯畫を描かせばよい、お話をうまく、面白くさせればよい、遊戯を教へればよい、手技をつくらせておけばよい、行儀作法をきちんさせればよいさばかり考へてゐる保姆諸君は、もう日本の國には一人もゐないだらうと思ひます。

健康生活——精神も、身體も健全であるこどもが千古不滅の眞理である云ふことを忘れてはなりません。

幼稚園程、家庭も最も近いものはないと思ひます、幼稚園は、家庭教育の代行所ではありません、幼稚園は家庭教育の指導場所であり又種まきの場所であります。保姆は全然母親の代權者ではありません。こどもの爲のよき生活への指導者であると同時に母親へのよき教師でなければなりません。

將來何年か、何十年か教育さるべき長い年月に於て、幼稚園時代の教養は、最重要なる基礎であり、個人的の生活から、團體的、社會的な生活への歩み初めであります。

「日本教育學」の著者文部省督學官近藤壽治氏は、次の様に語つてゐられるではありませんか。

「教育は單なる文化の傳達ではない、單なる自我の成長でもない、全體的共同體に歸還し、我に對する汝を媒介としてのみ我に顯はるゝ全體精神であらねばならぬ：」
健康生活——それは單なる我自身の個人的なものではない、社會的な全體精神に於てあらはされねばならぬ個人の健康であります。言ひ換へれば、社會的生活に於ての個人の健康の重要性であります。ですから、健康といふことは社會的生活に於て守らねばならぬ道德として存在が重要であります。

かうした意味から、社會的生活の初めである幼稚園生活から、健康生活の訓練が最必要であると思はれます。

○

倉橋先生。

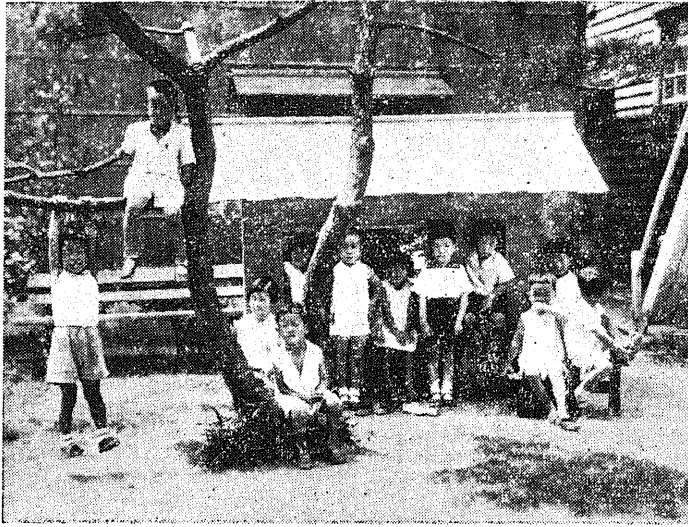
先生は本誌の九月號に「お饅頭を見るこ直ぐに手を出す私の様な天才であります」を講義されておられますが、大變甘黨の天才でおありの様ですが、誠に結構であると思ひます、私はお饅頭をほしければ、すぐ手を出す天才は、お饅頭を喰べるのにいくら位迄ならたべて、自分のお腹をそこなはないかといふことをよく知つてゐる天才でくれると思ひます、又さうあつて欲しいと思ひます。或は又お饅頭をいくらたべても、お腹を害はない天才であつて欲しいと思ひます。

昔の衛生論から云へば「そんなお饅頭なんか、たべてはいけません」を來るでせう、然し、私は「自分のお腹を害はない心がまへを以て、お饅頭をたべる天才であつて欲しいと思ひます。更に進んで、「お饅頭を、いくら喰べても、お腹を害はない」天才でありたいものです。

さて、倉橋先生は、いづれの天才でありませうか、一つお伺ひしたいです。幼稚園教育の天才であられるといふ事は昔より存じてゐましたが、其れと同時に、お饅頭たべの天才であることは、私は始めて承知いたしました。

閑話休題

こも角、「自らの健康は自ら守る人間」が望ましいこもで



あり、然も「それは社會に生くるものゝ道徳であるこの自覺」に向かつての心がまへが培はれる様に、積極的に、前進的に、重積的に健康教育が施こされて行きたいものであると思ひます。

倉橋先生は更に講義をすゝめられて「道徳教育」の處で、「道徳教育——即ち生活を道徳的態度に養つて行かうとする……」

こ述べておられる、そのこも、同じ様に健康教育も、健康に對する生活態度を養つて行かう、いふこもが最重要なこも——心がまへであります。

先づ保姆諸君が、かうした健康への心がまへ、健康教育の目標に對する認識、健康教育への重要性、その意義などを判然りと知つていたゞきたいのであります。

○ 倉橋先生

私の幼稚園(詳しく申しますと、私が園醫をしてゐます幼稚園)のこもです、何だか、私の幼稚園を言ひたい心持が致しますので、これから、略して、私の幼稚園を申します、然し、

決して私が幼稚園を經營してゐるのでもありません——それほごのお金持でもありません、或は私が園長さんでもありません——それほご私は、教育者でも、人格者でもありません。然し何だか、こごもが可愛くつて、ほんの僅かの、つらなりにある、幼稚園のお醫者さん、こごもが呼んで下さるうれしさで、私の幼稚園云はせていたゞきたいです、その私の幼稚園で、夏休み前から、小さい小屋を作りました、保姆さん、こごも、小使さん、みんなが大工になつて、板を運んだり、屋根をつくつたり、釘をうつたり、金鏈をたゞいたり、いろ／＼の仕事をして、やつこ一つの立派な木造建築が出来上りました。

窓が兩側に四つ位出入口が大きいのが、二つあつて、中には、こごもの椅子が六——八脚ほごは入るこごの出来る、それはそれは、立派な建築が出来上りました。やがて、ペンキがぬられて、今度は、美しい空色の洋館になりました。

之は要するに、從來の幼稚園の體育(體育といふ言葉が丁度、當てはまるか、さうかはさておき)に對する考へ方が、

之を考案された保姆諸君の頭の中に大分變つて來て下さつたこごをうれしく思ひました。勿論、此建築の大王さん遊びは唯單なる體育ではない、其外に數多の他の重要な教育上の要素を含んでおるこごは申すまでもありません。然しその中に健康への指示を、心持を考へていただいたこごが、私にこごつては何よりもうれしいこごでありました。

こごもの悦びましたこご、打ち込む釘は、曲つても、ゆがんでは入り込んでも、時には金鏈がすべつて、指先を打つても、ペンキが手についても、それはそれは、よろこんで力一杯に働きました、汗を出して、汗をふいて、働きました。

未だ完成もしない内から、ペンキをぬりませうといふ保姆諸君の聲をよそにして、さう／＼出来るか、出来る上らない内に、椅子を持込んで、それは、それはいろ／＼な、こごもの生活に利用されました。それ故さう／＼、ペンキぬりは一、二ヶ月後れてやつこ夏休みがすんで、九月になつてから行はれたこごでした。

之はほんの僅かな出来事です、然し、私の眼から見れば、

雜 錄

お部屋に終日、閉込もつて、手技だ、遊戯だ、お話だ、唱歌だ、觀察だ、い一つてゐるより、青空の下で、汗を流して、力を入れて大きな筋肉を働かせて、働くこゝみにされほごか、又新しい價値——健康への身體的精神的の訓練があるではないかと思はれました。

倉橋先生。

こんなお仕事——労働、體育は幼稚園では悪いでせうか、如何でせうか？

◎全日本保育大會

全日本保育大會が、左の要項で開かれる事になつて居ります。講演、協議、研究、發表等豊富なるこの會のプログラムは僅かなこの紙面では盡し得ませんので、遺憾ながら掲載致しませんでした。御承知御希望の方は、大阪市北區堂島、大阪毎日新聞社會事業團宛でお申込になれば、送付していただきます。

期日 昭和十二年十一月十三日(土) 十四日(日) 十五日(月) 三日間

第一會場 大阪市軍人會館
第二會場 大阪市國民會館
會場 第三會場 大阪毎日新聞社講堂
第四會場 大阪市中央公會堂

主催 全日本保育聯盟 大阪毎日新聞社會事業團

◎第三回四國四縣保育大會

第三回四國四縣保育大會が、去る九月二十五日、二十六の兩日愛媛縣女子師範學校、並に松山市廳舎に於て開かれました。參會者三百名。内容の充實した、盛んな會でありました。